



軽防協ニュース速報（号外）

2014年3月12日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

馬鼻肺炎ウイルスによる流産等の発生状況について

2013 年輕防協ニュース速報 No.1～4 において既報の通り、近年世界各国で馬鼻肺炎ウイルスによる神経疾患および流産の発生が続いており、2014 年においてもニュージーランド、イギリス、アメリカ、ドイツおよびフランスでの発生がすでに報告されている。

日本においても、日高地方において馬鼻肺炎ウイルスによる流産が例年以上（3月12日現在 41 症例）に発生しており、1つの牧場で流産が続発する例、あるいは神経疾患に続発して流産が発生する例が認められている。特に、神経疾患（脳脊髄症）を引き起こす馬鼻肺炎ウイルスは高病原性株の可能性が高く、ワクチン接種だけでは予防が困難であることが知られている。

発生を予防するためには、感染源となる可能性が高い新規導入馬や、ウイルスを増幅する若齢の育成馬を妊娠馬と分けて飼養することが重要である。また、発生時には感染の拡大を防ぐため、流産馬を隔離し、当該馬房およびウイルスに汚染されたと考えられるすべてについて消毒を徹底する必要がある。

情報提供

1. International Collating Centre, Interim Report - Jan 2014 #7, 2014.1.24
2. International Collating Centre, Interim Report - Jan 2014 #8, 2014.1.29
3. International Collating Centre, Interim Report - Feb 2014 #4, 2014.2.18
4. International Collating Centre, Interim Report - Feb 2014 #5, 2014.2.19
5. International Society for Infectious Diseases
6. 日本軽種馬協会